

冷媒 R410A 対応

三菱電機店舗・事務所用
パッケージエアコン
室内ユニット

形名

PF-RP224BA16

PF-RP280BA16

取扱説明書

もくじ	ページ
安全のために必ず守ること	4
1. 各部の名称	8
2. 別売部品	12
3. ご使用の前に	12
4. 使用方法	15
5. お手入れ	30
6. 定期点検のお願い	33
7. 製品独自のお願い事項	35
8. 据付工事の確認と試運転	36
9. 仕様	36
10. 修理を依頼する前に	37
11. 法令関連の表示	39
12. 保証とアフターサービス	41
13. 環境関連の表示	42

- ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
- 保証書は「お買上げ日(据付日または試運転完了日)・販売店名(工事店名)」などの記入を確かめて、販売店(工事店)からお受け取りください。
- 「取扱説明書」と「保証書」は大切に保管してください。
- 添付別紙の「三菱電機 修理窓口・ご相談窓口のご案内」は大切に保管してください。
- お使いになる方が代わる場合には、本書と「据付工事説明書」および「保証書」をお渡しください。
- お客様ご自身では据付けないでください。(安全や機能の確保ができません。)
- この製品は、日本国内用に設計されていますので、国外では使用できません。また、アフターサービスもできません。

This appliance is designed for use in Japan only and the contents in this document cannot be applied in any other country. No servicing is available outside of Japan.


もくじ

	ページ	ページ
安全のために必ず守ること	4	
1. 各部の名称	8	
1-1. 各部のなまえとはたらき	8	
1-1-1. 室内ユニット	8	
1-1-2. 室外ユニット	9	
1-1-3. リモコン	9	
2. 別売部品	12	
3. ご使用前に	12	
3-1. 使用上のお願い	12	
3-2. 各種運転について	13	
4. 使用方法	15	
4-1. 運転方法	15	
4-2. 運転/停止と運転モード、室温調節のしかた (ワイヤードリモコン)	15	
4-2-1. 運転を開始するとき	15	
4-2-2. 運転を停止するとき	16	
4-2-3. 運転モードを選ぶとき	16	
4-2-4. 設定温度を変えたいとき	16	
4-2-5. 室温表示	16	
4-3. 風速・風向調節と換気運転のしかた (ワイヤードリモコン)	17	
4-3-1. 風速を変えたいとき	17	
4-3-2. 上下風向を変えたいとき	17	
4-3-3. 左右風向を変えたいとき	17	
4-3-4. 換気運転のしかた	17	
4-4. 簡易タイマー運転のしかた (ワイヤードリモコン)	18	
4-4-1. 簡易タイマーの設定のしかた	19	
4-4-2. 簡易タイマー設定を確認するとき	20	
4-4-3. 簡易タイマー運転を解除 (停止) するとき	20	
4-5. 消忘れ防止タイマー運転のしかた (ワイヤードリモコン)	20	
4-5-1. 消忘れ防止タイマーの設定のしかた	21	
4-5-2. 消忘れ防止タイマー設定を確認するとき	21	
4-5-3. 消忘れ防止タイマーを解除 (停止) するとき	21	
4-5-4. 消忘れ防止タイマーを設定するとき	22	
4-6. 操作ロックのしかた (ワイヤードリモコン)	22	
4-6-1. 操作ロック設定のしかた	22	
4-6-2. 操作ロック設定解除のしかた	23	
4-7. その他の表示・点滅について (ワイヤードリモコン)	23	
4-7-1. 集中管理中表示	23	
4-7-2. 運転モードの点滅	23	
4-7-3. フィルター清掃の点滅	23	
4-7-4. エラーコードの点滅	24	
4-8. リモコンの機能選択のしかた (ワイヤードリモコン)	25	
4-9. ワイヤレスリモコンを使用する場合	28	
4-10. その他の操作について	29	
4-10-1. 長期間使用しないとき	29	
5. お手入れ	30	
6. 定期点検のお願い	33	
7. 製品独自のお願事項	35	
7-1. 廃棄について	35	
7-2. 移設時の据付場所について	35	
8. 据付工事の確認と試運転	36	
9. 仕様	36	
10. 修理を依頼する前に	37	
11. 法令関連の表示	39	
11-1. 標準的な使用条件	39	
11-2. 点検と保全周期の目安	39	
11-3. 消耗部品の交換周期目安	40	
12. 保証とアフターサービス	41	
13. 環境関連の表示	42	

安全のために必ず守ること

- ◆この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、取り扱ってください。
- ◆ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。

 **警告** 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うおそれのあるもの

 **注意** 取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負う、または物的損害が発生するおそれのあるもの

- ◆図記号の意味は次のとおりです。



- ◆お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
- ◆お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

一般事項

警告

当社指定の冷媒以外は絶対に封入しないこと。

- ◆使用時・修理時・廃棄時などに、破裂・爆発・火災のおそれあり。
- ◆法令違反のおそれあり。

封入冷媒の種類は、機器付属の説明書・銘板に記載し指定しています。指定冷媒以外を封入した場合の不具合・事故に関して当社は一切責任を負いません。



以下の特殊な環境では使用しないこと。

- ◆油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところ

- ◆酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーを頻繁に使用するところ

- ◆性能低下・腐食による冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・故障・発煙・火災のおそれあり。



吹出し風を身体に直接当てないこと。

- ◆体調悪化や健康障害、食品劣化のおそれあり。



吹き出しの風が直接あたる所に燃焼器具を置かないこと。

- ◆燃焼器具が不完全燃焼を起こし、酸素欠乏・一酸化炭素中毒のおそれあり。



冷やし過ぎないこと。

- ◆体調悪化や健康障害、食品劣化のおそれあり。



改造はしないこと。

- ◆冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。




安全装置・保護装置の改造や設定変更をしないこと。

- ◆保護装置を改造して運転を行った場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。
- ◆設定値を変更して使用した場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。
- ◆当社指定品以外のものを使用した場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。



ユニットの据付・点検・修理をする周囲に子どもを近づけないこと。


- ◆ 工具などが落下すると、けがのおそれあり。



禁止

ユニットの近くに可燃物を置いたり、可燃性スプレーを使用したりしないこと。


- ◆ 引火・火災・爆発のおそれあり。



禁止

殺虫剤・可燃性スプレーなどを製品の近くに置いたり、直接吹付けないこと。


- ◆ 変形・引火・火災・爆発のおそれあり。



禁止

粉塵が浮遊している場合は、ユニットを使用しないこと。


- ◆ 吸い込みによる故障・発煙のおそれあり。
- ◆ 健康障害のおそれあり。



禁止

ヒューズ交換時は、針金・銅線を使用しないこと。指定容量のヒューズを使用すること。


- ◆ 発火・火災のおそれあり。



禁止

お手入れのときは不安定な台に乗らないこと。


- ◆ 落下・転倒し、けがのおそれあり。



禁止

運転中および運転停止直後の冷媒配管・冷媒回路部品に素手で触れないこと。


- ◆ 冷媒は循環過程で低温または高温になるため、素手で触れると凍傷・火傷のおそれあり。



接触禁止

運転中および運転停止直後の電気部品に素手で触れないこと。


- ◆ 火傷・感電のおそれあり。



接触禁止

ユニットを水・液体で洗わないこと。


- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

電気部品に水・液体・洗浄スプレー液をかけないこと。


- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

水の入った容器を製品などの上に載せないこと。


- ◆ 水がこぼれた場合、ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。


- ◆ 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



ぬれ手禁止

フィルター清浄・交換など、高所では足を踏み外さないように作業すること。

- ◆ 落下・転倒し、けがのおそれあり。



指示を
実行

掃除・整備・点検をする場合、運転を停止して、主電源を切ること。


- ◆ けが・感電のおそれあり。
- ◆ 回転機器により、けがのおそれあり。



指示を
実行

薬品を散布する前に運転を停止し、ユニットにカバーを掛けること。


- ◆ 薬品がユニットにかかること、運転時にけがのおそれあり。
- ◆ 薬品がユニットにかかって損傷すると、けが・感電のおそれあり。



指示を
実行

換気をよくすること。


- ◆ 冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。
- ◆ 冷媒が火気に触れた場合、有毒ガス発生のおそれあり。



換気を
実行

燃焼器具を使用する場合は換気をよくすること。


- ◆ 不完全燃焼を起こし、酸素欠乏・一酸化炭素中毒のおそれあり。



換気を
実行

異常時（こげ臭いなど）は、運転を停止して電源スイッチを切ること。


- ◆ お買い上げの販売店・お客様相談窓口にご連絡すること。
- ◆ 異常のまま運転を続けた場合、感電・故障・火災のおそれあり。



指示を
実行

端子箱や制御箱のカバーまたはパネルを取り付けること。

- ◆ ほこり・水による感電・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を
実行

基礎・据付台が傷んでいないか定期的に点検すること。

- ◆ ユニットの転倒・落下によるけがのおそれあり。



指示を
実行

ユニットの廃棄は、専門業者に依頼すること。

- ◆ 充てんした油や冷媒を取り除いて廃棄しないと、環境破壊・火災・爆発のおそれあり。



指示を
実行

注意

ユニットの上に乗ったり物を載せたりしないこと。

- ◆ ユニットの転倒や載せたものの落下によるけがのおそれあり。



禁止

部品端面・ファンや熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- ◆ けがのおそれあり。



接触禁止

空気の吹出口や吸込口に指や棒などを入れないこと。

- ◆ ファンによるけがのおそれあり。



禁止

フィルターを取り外す場合、保護具を身につけること。

- ◆ ほこりが目に入り、けがのおそれあり。



指示を
実行

先のとがった物で表示部・スイッチ・ボタンを押さないこと。

- ◆ 感電・故障のおそれあり。



使用禁止

保護具を身に付けて操作すること。

- ◆ 主電源を切っても数分間は充電された電気が残っている。触れると感電のおそれあり。



指示を
実行

パネルやガードを外したまま運転しないこと。

- ◆ 回転機器に触れると、巻込まれてけがのおそれあり。
- ◆ 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- ◆ 高温部に触れると、火傷のおそれあり。



使用禁止

電気部品を触る場合は、保護具を身に付けること。

- ◆ 高温部に触れると、火傷のおそれあり。
- ◆ 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。



指示を
実行

食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しないこと。

- ◆ 保存品が品質低下するおそれあり。



使用禁止

作業する場合は保護具を身に付けること。

- ◆ けがのおそれあり。



指示を
実行

吹き出しの風が直接あたる所に動植物を置かないこと。

- ◆ 悪影響のおそれあり。



禁止

フィルターの点検・清掃は専門業者がすること。

- ◆ けがのおそれあり。



指示を
実行

運転停止後、すぐにユニットの電源を切らないこと。

- ◆ 運転停止から5分以上待つこと。
- ◆ ユニットが故障し、水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



禁止

ユニットの据付・点検・修理をする前に周囲の安全を確認すること。

- ◆ パネルが落下すると、けがのおそれあり。



指示を
実行

ぬれて困るものを下に置かないこと。

- ◆ ユニットからの露落ちにより、ぬれるおそれあり。



禁止

薬品消毒実施後は、薬品のガスを換気により排出すること。その後ユニットを運転すること。

- ◆ ユニットに付着した薬品が飛散し、薬品を浴びると、けがのおそれあり。
- ◆ ユニットが吸い込むと腐食・変形による故障のおそれあり。



ユニット内の冷媒は回収すること。

- ◆ 冷媒は再利用するか、処理業者に依頼して廃棄すること。
- ◆ 大気に放出すると、環境破壊のおそれあり。



販売店または専門業者が定期的に点検すること。

- ◆ ユニットの内部にゴミ・ほこりがたまった場合、水漏れにより家財がぬれるおそれあり。
- ◆ においが発生するおそれあり。



移設・修理をするときに

警告

改造はしないこと。ユニットの移設・分解・修理は販売店または専門業者に依頼すること。

- ◆ 冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



分解・修理をした場合、部品を元通り取り付けること。

- ◆ 不備がある場合、けが・感電・火災のおそれあり。



基板に手・工具で触れたり、ほこりを付着させたりしないこと。

- ◆ ショート・感電・故障・火災のおそれあり。



注意

点検・修理時は、配管支持部材・断熱材を確認し劣化したものは補修、交換すること。

- ◆ 冷媒漏れ・水漏れのおそれあり。



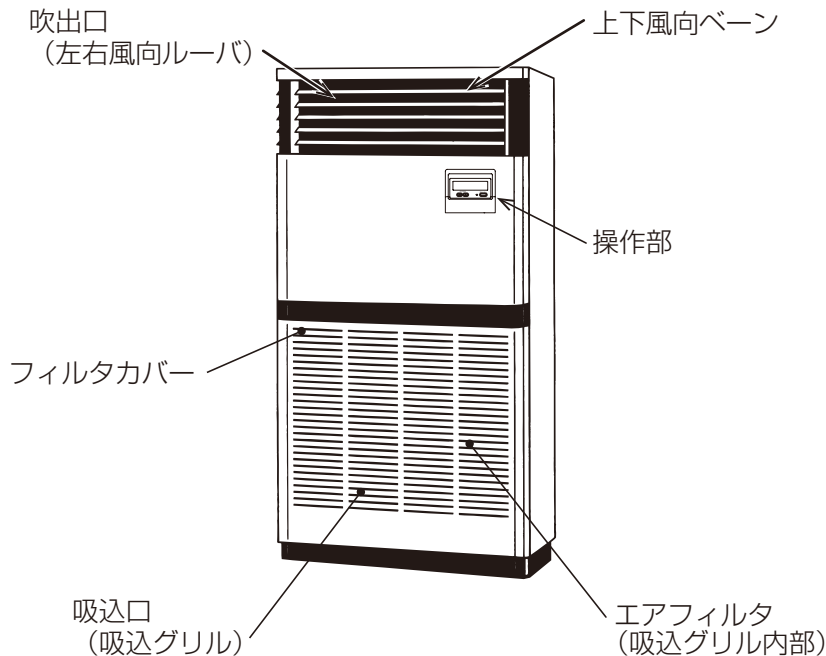
1. 各部の名称

1-1. 各部のなまえとはたらき

1-1-1. 室内ユニット

		PF-RP224,280BA16
風速		2速
上下風向調整		手動
左右風向調整		手動(工具要)
エアフィルタ		○
フィルタクリーニングサイン積算時間		100時間
ワイヤレスリモコン 機種設定機種 No. ※1	冷暖切替タイプ	019
	冷房専用タイプ	179

※1 ワイヤレスリモコンを使用する場合には、ワイヤレスリモコン側へ上表「機種 No.」設定を行ってください。
 ・ 室外ユニットタイプ(冷暖切替タイプ/冷房専用タイプ)により設定する「機種 No.」が異なります。
 ・ ワイヤレスリモコンの機種設定方法は、ワイヤレスリモコンの据付工事説明書を参照してください。



お願い

- ・ 吹出口・吸込口を塞がないでください。
風の流れを妨げた場合、能力低下・故障のおそれがあります。

警告

ユニットの据付・点検・修理をする周囲に子どもを近づけないこと。

- ◆ 工具などが落下すると、けがのおそれあり。

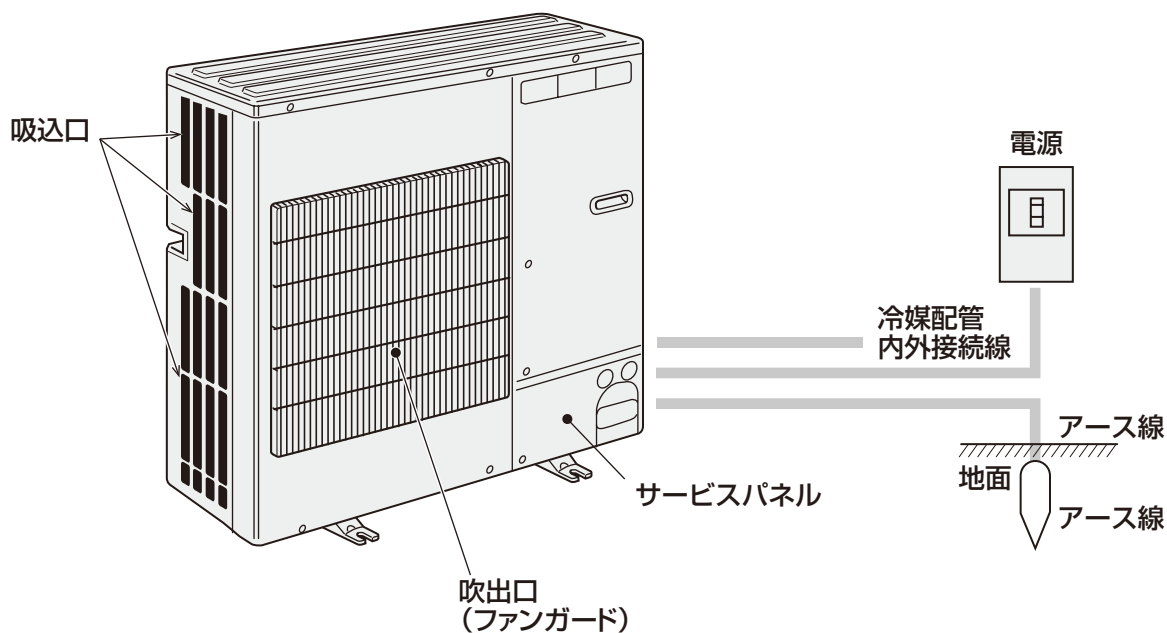


禁止

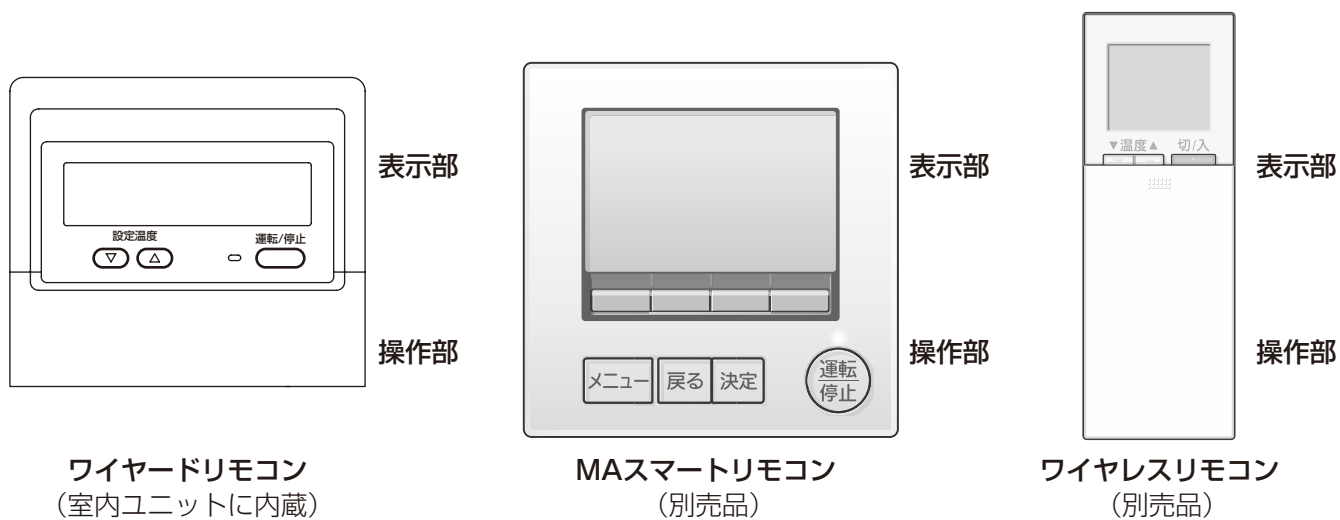
お願い

- ・ 据付・点検・修理をする場合、適切な工具を使用してください。
工具が適切でない場合、ユニット損傷のおそれがあります。

1-1-2. 室外ユニット



1-1-3. リモコン



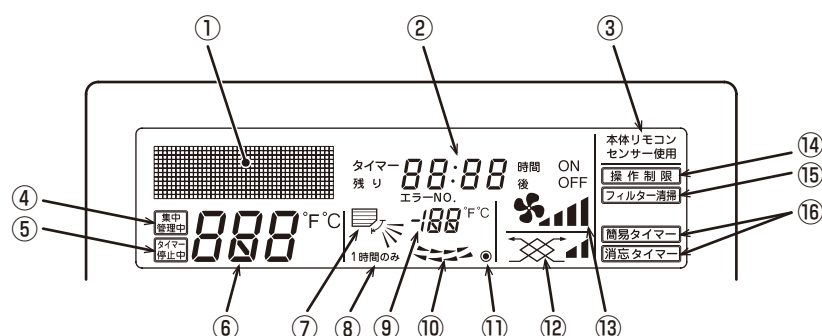
※操作方法は、MAスマートリモコン取扱説明書を参照してください。

※操作方法は、ワイヤレスリモコン取扱説明書を参照してください。

[1] ワイヤードリモコン

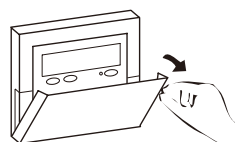
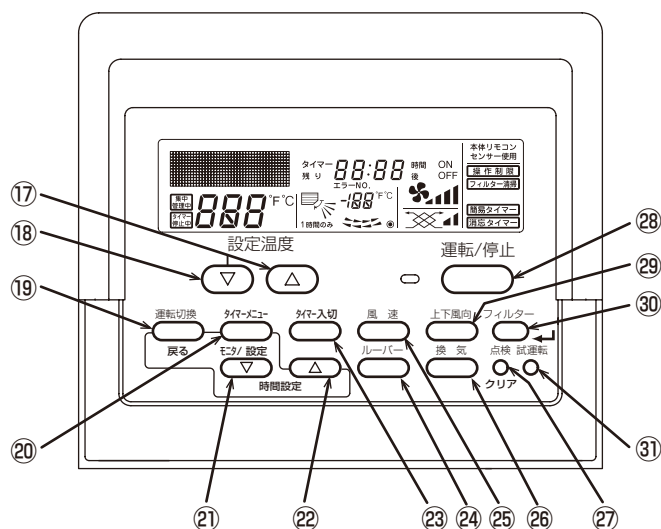
(1) 表示部

- ・説明のためすべての表示が点灯しています。



番号	表示/名称	説明
①	操作内容表示	運転モードなどを表示します。 ※他言語対応
②	タイマー実行時間表示	簡易タイマー、消忘タイマー運転時は、タイマー実行時間を表示します。
③	センサー使用表示	リモコンと室内ユニット、どちらかのセンサーを使用しているかを表示します。
④	「集中管理中」表示	集中コントローラなどで操作禁止されている場合に表示します。
⑤	「タイマー停止中」表示	タイマーの運転状態を表示します。
⑥	設定温度表示	選択された設定温度を表示します。
⑦	上下風向表示	吹出しの風向を、印で表示します。
⑧	「1時間のみ」表示	冷房およびドライ運転で弱風下向きにセットしたとき表示します。 (機種により異なります) 1時間経過しますと表示は消え、風向も切り替わります。
⑨	室温表示	運転中の吸込温度を表示します。
⑩	ルーバー表示	シングルルーバーの作動を表示します。停止の場合は表示しません。
⑪	●表示	通電時、表示します。
⑫	換気表示	換気運転時、表示します。
⑬	風速表示	選択された風速を表示します。
⑭	「操作制限」表示	操作制限をしている場合、点灯表示します。
⑮	「フィルター清掃」表示	フィルターの清掃時期がくると表示します。
⑯	タイマー機能表示	タイマーが設定されている場合、その機能を表示します。

(2) 操作部

とびらを
開ける

番号	表示/名称
⑰	[設定温度△] ボタン
⑱	[設定温度▽] ボタン
⑲	[運転切換] ボタン/[戻る] ボタン
⑳	[タイマーメニュー] ボタン/[モニタ/設定] ボタン
㉑	[時間設定▽] ボタン
㉒	[時間設定△] ボタン
㉓	[タイマー入切] ボタン
㉔	[ルーバー] ボタン
㉕	[風速] ボタン
㉖	[換気] ボタン
㉗	[点検] ボタン/[クリア] ボタン
㉘	[運転/停止] ボタン
㉙	[上下風向] ボタン
㉚	[フィルター] ボタン/[←] ボタン
㉛	[試運転] ボタン

お知らせ

- 操作ボタンを押してもその機能が室内ユニットに装備されていない場合には「無効ボタン」と点灯表示が出ます。1台のリモコンで複数の室内ユニットを操作している場合、代表の室内ユニットが機能を装備していれば、表示されません。

2. 別売部品

パッケージエアコンには、多様な使い方に対応していただけるように、専用の別売部品を用意しています。詳細はお買上げの販売店にお問い合わせください。

3. ご使用前に

- お客様ご自身では据付けないでください。(安全や機能の確保ができません。)
- 本製品の据付工事は、販売店(工事店)が関連法規・資格に基づき実施しております。
- 据付工事完了後、「8. 据付工事の確認と試運転(36ページ)」の事項をお客様ご自身でご確認ください。
- 販売店(工事店)が試運転を行う際、立ち会ってください。
- 運転手順、安全を確保するための正しい使い方について、販売店(工事店)から説明を受けてください。

3-1. 使用上のお願い

警告

冷やし過ぎないこと。

- 体調悪化や健康障害、食品劣化のおそれあり。



禁止

吹き出しの風が直接あたる所に燃焼器具を置かないこと。

- 燃焼器具が不完全燃焼を起こし、酸素欠乏・一酸化炭素中毒のおそれあり。



禁止

“ミスタースリム”を上手に正しくお使いいただき、快適な室内環境を作ってください。

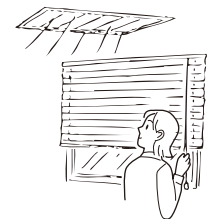
1) 室内温度(室温)は最適にしてください。

- 冷房運転では室内と室外の温度差を5℃以内にするのが最適です。
- 冷やし過ぎは電力のムダ使いにもなります。
たとえば冷房のとき設定温度を1℃上げると約10%の電力が節約できます。



2) 冷房時は熱の侵入を少なくしてください。

- 冷房時直射日光の当たる窓にはブラインド、カーテンをひくなどして熱の侵入を少なくしてください。
- 出入口は必要なとき以外は開けないようにしてください。



3) 室内ユニットの吹き出し風を長時間直接肌に当てないでください。

- 特に赤ちゃんや子供は大人に比べて敏感です。室内ユニットの風を直接肌に当てないでください。



4) フィルタの清掃をしてください。

- フィルタの目詰まりは風の流れを悪くし、冷房・暖房能力を低下させます。電力のムダ使いとなります。また露付き・露垂れの原因にもなります。
- ワイヤードリモコンはフィルタサイン付きです。
- ※ フィルタの清掃は専門の業者に依頼してください。



5) 中間期にはドライ運転をしてください。

- ・ムシムシすると感じる時は、空気中に含まれる水蒸気が多い状態です。湿度は温度や風との関係があり、快適と感じる湿度条件は夏で60～70%、冬では55～70%程度といわれています。
- ・ムシムシするとき、冷房運転では冷えすぎと感じるときがあります。ドライ運転を利用してください。



6) 室内の温度ムラ解消に風向調節をしてください。

- ・冷房時、冷たい空気は重いので水平吹出しなどにして、上方から冷やすよう風向を調節してください。
- ・暖房時、足元が寒いのは、冷たい空気が重いので床の近くにたまるからです。下吹出しなど風向を調節してください。



7) ときどき換気をしてください。

- ・長時間、閉め切った室内では空気が汚れますので、ときどき換気が必要です。
- ・送風運転は、室内の空気を循環させるはたらきをします。
- ・冷房・ドライ・暖房運転をしない中間期に換気扇との連動運転をしますと、より効果的な換気ができます。当社「ロスナイ換気扇」を利用しますとムダのない換気ができます。



3-2. 各種運転について

(1) ドライ運転とは

- ・室温が下がるのを抑えながら、湿気を取り除く運転をします。

(2) 暖房運転について

- ・暖房開始時に風が弱い：吹出し空気が一定の温度に達するまでは、吹出し空気の温度上昇に合わせて、徐々に設定風速へ切り替わります。
その間ワイヤードリモコンには「暖房準備中」と表示されます。(ワイヤレスリモコンの場合は受光部付近にある表示灯が点灯します。)
- ・風速が設定どおりにならない：室温が設定温度になると、風速は微風となります。
- ・風が出ない：ワイヤードリモコンに「霜取中」表示中は風を出しません。(ワイヤレスリモコンの場合は受光部付近にある表示灯が点灯します。)
- ・運転を停止しても風が出る：運転停止後最大約1分間、室内ユニット内の余熱を排熱するために室内ファンがまわることがあります。

(3) 換気連動運転とは

- ・室内空気と新鮮な外気とを混合させ、より効果的な換気を行うものです。

(4) 霜取運転とは

- ・外気温度が低く、湿度が高いときに室外ユニットに霜が付きます。この霜を溶かす運転をしています。霜取運転中はリモコンに「霜取中」を表示します。
霜取運転は約10分程度(最大15分)で終わります。
- ・霜取運転を行っているときは、室内ユニットの熱交換器が冷たくなりますので、送風機を停止しています。またこの間は上下風向ベーンを水平吹きに自動設定します。霜取運転を終了しますと暖房準備中へと移行します。

(5) 暖房プレヒートとは

- ・霜取運転中の室内温度低下を抑えるため、霜取運転を行う直前に強めの暖房を行い、室温を上げる運転をします。
- ・外気温度、霜の付き具合、霜取直前の運転状態によっては効果を得られない場合があります。

(6) 運転停止後の霜取りについて

- ・ 暖房運転停止後、霜取運転をします。運転停止後に霜を溶かすことで、次回起動時の立ち上がり時間が早くなります。
※ リモコンに霜取中の表示はされません。

(7) 室外サイレントモードとは

- ・ 室外ユニットの音が気になるとき、能力をセーブし、静音性を優先した運転をします。

(8) 省エネ運転とは

- ・ 消費電力を制限するデマンド制御をします。

(9) パワーシェア運転とは

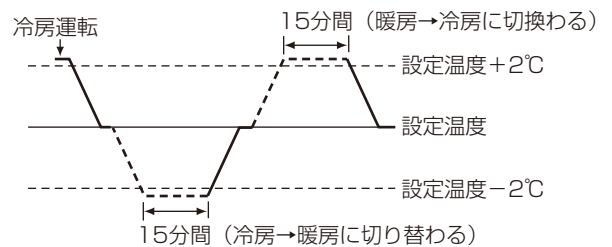
- ・ この機能有効時は各冷媒系統が協調して運転することで全体の電力が最小になるように圧縮機を制御します。この機能は2～4冷媒系統が1グループの場合に設定できる機能になります。5冷媒系統以上が接続される場合は設定できません。
設定方法はMAスマートリモコン取扱説明書を参照してください。

(10) スマートデフロスト運転とは

- ・ 各冷媒系統が同時に霜取運転にならないように協調します。ただし、条件によっては同時に霜取運転する場合があります。
この機能は2～4冷媒系統が1グループの場合に働く機能になります。5冷媒系統以上が接続される場合は設定できません。

(11) 自動運転とは

- ・ 設定温度より室温が高いときは冷房運転を開始し、室温が低いときは暖房運転を開始します。
- ・ 自動運転中に室温が変化し設定温度より2℃以上高くなり、その状態が15分続くと冷房運転に切り替わります。また、2℃以上低くなり、その状態が15分続くと暖房運転に切り替わります。



(12) 消費電力量、CO₂ 排出量表示について

- ・ 運転中に消費した電力量、またはCO₂ 排出量を内蔵リモコンに表示することができます。詳細は下記の弊社Webサイトより、MAスマートリモコン (PAR-42MA) の取扱説明書を参照してください。
WIN²K (<https://www.mitsubishielectric.co.jp/ldg/wink/ssl/top.do>)

4. 使用方法

4-1. 運転方法



ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。

- ◆ 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



ぬれ手
禁止

異常時（こげ臭いなど）は、運転を停止して電源スイッチを切ること。

- ◆ お買い上げの販売店・お客様相談窓口にご連絡すること。
- ◆ 異常のまま運転を続けた場合、感電・故障・火災のおそれあり。

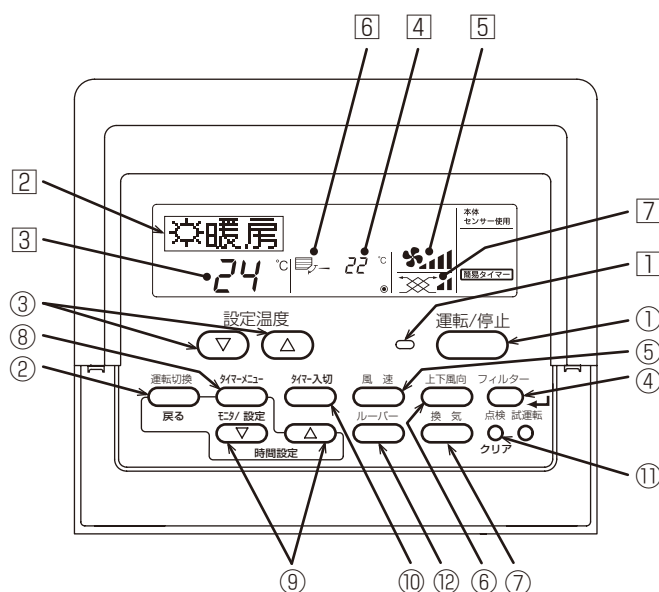


指示を
実行

お願い

- ・ 電源が入っているか確認してください。
- ・ 停電や電気工事、また外気温度が10℃以下で1日以上電源を切って放置した場合は、電源を入れてから12時間以上運転を待ってください。
- ・ ユニット運転期間中は電源を切らないでください。故障のおそれがあります。

4-2. 運転／停止と運転モード、室温調節のしかた（ワイヤードリモコン）



運転モード表示

- 冷房
- ドライ ※自動(冷房)/自動(暖房)モードは設定できません。自動モード設定時、冷房/暖房の運転が確定した後に表示されます。
- 送風
- 自動
- 冷房 (自動冷房モード)
- 暖房 (自動暖房モード)
- 暖房

運転状態表示

- 暖房準備中
 - 暖房 ↔ 準備中 交互に表示
- 霜取中
 - 暖房 ↔ 霜取中 交互に表示

4-2-1. 運転を開始するとき

手順

1. [運転／停止] ボタン①を押す。
運転ランプ [1] と表示部が点灯します。

お知らせ

再運転は、下記運転内容となります。

	リモコン設定内容
運転モード	前回運転モード
温度設定	前回設定温度
風速	前回設定風速

4-2-2. 運転を停止するとき

手順

1. [運転/停止] ボタン①を押す。
運転ランプ [1] と表示部が消えます。

4-2-3. 運転モードを選ぶとき

手順

1. 運転中に [運転切換] ボタン②を押す。
1回押すごとに設定が切り替わります。
運転モードが [2] に表示されます。



※1 室外ユニットの機種により、自動・暖房機能がない場合があります。

お知らせ

- 自動運転の場合、設定温度より室温が高いときは冷房運転を、室内温度が低いときは暖房運転を開始します。
- リモコン機能選択で「自動モード使用なし」が選択されている場合は、自動モードは表示されません。

4-2-4. 設定温度を変えたいとき

(1) 室温を下げたいとき

手順

1. [設定温度▽] ボタン③を押す。

(2) 室温を上げたいとき

手順

1. [設定温度△] ボタン③を押す。

お知らせ

- 1回押すごとに設定温度を1℃変えられます。
設定温度が [3] に表示されます。
- 設定できる温度は次のとおりです。

冷房・ドライ運転	暖房運転	自動運転	送風・換気
19～30℃	17～28℃	19～28℃	設定できません

※ リモコン機能選択で温度範囲制限が設定されている場合、設定できる温度範囲が狭くなります。
範囲を超えて設定しようとした場合、制限中であることが表示されます。

4-2-5. 室温表示

運転中の吸込温度が [4] に表示されます。

お知らせ

- 表示範囲は8～39℃で、これを超える場合は8℃、または39℃で点滅します。
- 複数台の室内ユニットを操作する場合は、リモコンへの表示は、代表室内ユニット(親機)の内容が表示されます。
- 室温センサ位置は、「本体」と「リモコン」が選択できます。初期設定は、「本体」です。室温センサ位置を「リモコン」に変更される場合は、お買上げの販売店に相談してください。
- リモコン機能選択で「室温表示なし」が選択されている場合は、室温は表示されません。

4-3. 風速・風向調節と換気運転のしかた（ワイヤードリモコン）

4-3-1. 風速を変えたいとき

手順

1. 運転中に [風速] ボタン⑤を押す。
 - ・ 1回押すごとに以下のように設定が切り替わります。
風速が ⑤ に表示されます。
 - ・ 設定できる風速は次のとおりです。

風速	リモコン表示
2段階機種	

お知らせ

- ・ 以下のようなときは、液晶表示とユニットの風速が異なります。
 - ・ “暖房準備中”・“暖房霜取中”表示のとき
 - ・ 暖房モードで外気温度が高いとき
 - ・ 冷房運転直後
 - ・ ドライモードのとき
 - ・ 暖房モードで設定温度より室温が高いとき
 - ・ 暖房運転直後（モード切替待機中）
 - ・ 冷房運転中（室温が設定温度に近いとき）

4-3-2. 上下風向を変えたいとき

手順

1. 運転を停止し、風向きルーバをお好みの向きに調節する。（手動操作となります）

お願い

- ・ 転倒しないように足場を安定させてください。

4-3-3. 左右風向を変えたいとき

手順

1. 運転を停止し、風向きルーバをお好みの向きに調節する。（手動操作となります）

お願い

- ・ 転倒しないように足場を安定させてください。
- ・ 縦ルーバをプライヤなどで左右に動かしてください。
動かし過ぎると縦ルーバの根元が破断する原因となります。
できるだけ角度の変更は少なくしてください。

4-3-4. 換気運転のしかた

(1) 室内ユニットと連動して換気装置を運転するとき

手順

1. [運転/停止] ボタン①を押す。
 - ・ 換気表示⑦が表示されます。
室内ユニットを運転したとき、自動的に換気装置も運転します。

(2) 室内ユニットを停止中に換気装置のみを運転するとき

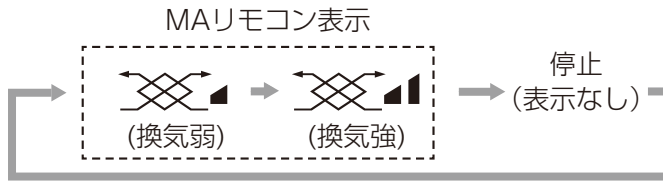
手順

1. 室内ユニット停止中に、[換気] ボタン⑦を押す。
 - ・ 運転ランプ ① と換気表示⑦が表示されます。

(3) 換気操作の風速を変えたいとき

手順

1. [換気] ボタン⑦を押す。
 - ・ 押すごとに、以下のように切り替わります。

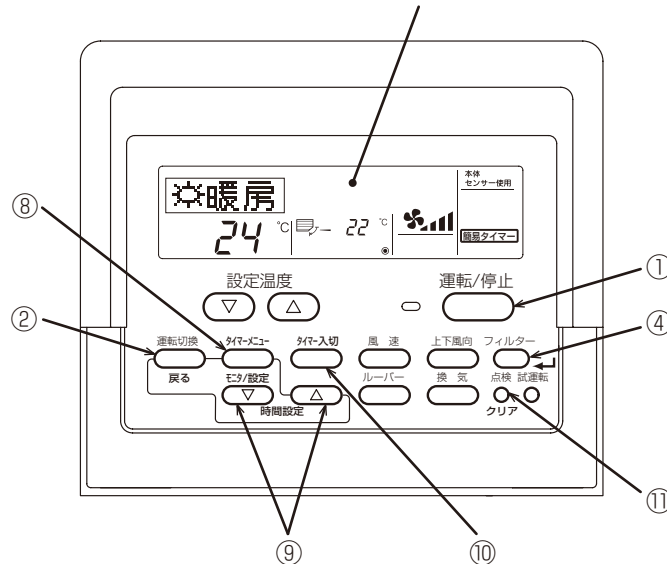


お知らせ

- ・ 室内ユニットと換気装置の機種により、換気装置のみを運転した場合でも室内ユニットのファンが動作する場合があります。
- ・ [換気] ボタン⑦を押したとき、「無効ボタン」の表示が点灯する場合は、換気装置が連動接続されていません。

4-4. 簡易タイマー運転のしかた (ワイヤードリモコン)

簡易タイマー停止中 タイマー時間消灯



1) 簡易タイマー運転には次の3つの方法があります。

- ・ 入タイマー運転 : 運転開始時間のみをタイマーです。
- ・ 切タイマー運転 : 運転終了時間のみをタイマーです。
- ・ 入切タイマー運転 : 運転開始/終了時間をタイマーです。

2) 簡易タイマー運転の設定は、72時間以内に入・切各1回以内です。設定時間は、1時間単位です。

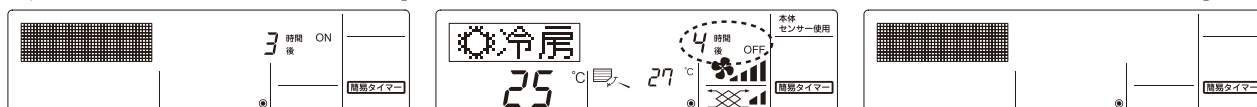
3) タイマー運転には、簡易タイマーの他に消忘れ防止タイマーを選択することが可能です。消忘れ防止タイマーの設定方法は、「4-8. リモコンの機能選択のしかた (ワイヤードリモコン) (25ページ)」を参照してください。

消忘れ防止タイマーの設定方法は、「4-5. 消忘れ防止タイマー運転のしかた (ワイヤードリモコン) (20ページ)」を参照してください。

タイマー設定表示例

入タイマー、切タイマーの両方が設定されている場合の表示切替について。

例1) 入タイマーから開始する場合 【入タイマー設定時間：3時間後ON 切タイマー設定時間：7時間後OFF の場合】

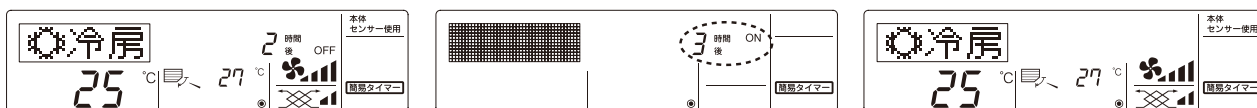


タイマー開始
入タイマー時間を表示

3時間後
切タイマー時間 — 入タイマー時間を
表示

7時間後
7時間経過後以降は操作があるまで
停止のままとなります。

例2) 切タイマーから開始する場合 【入タイマー設定時間：5時間後ON 切タイマー設定時間：2時間後OFF の場合】

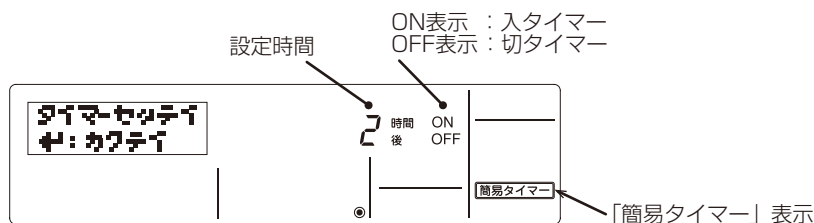


タイマー開始
切タイマー時間を表示

2時間後
入タイマー時間 — 切タイマー時間を
表示

5時間後
5時間経過後以降は操作があるまで
運転のままとなります。

4-4-1. 簡易タイマーの設定のしかた



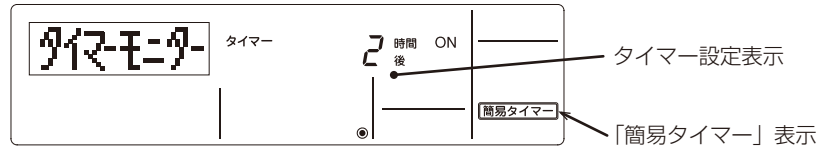
手順

1. 液晶に「簡易タイマー」表示が表示されていることを確認する。
2. **[タイマーメニュー]** ボタン⑧を押し、「タイマーセッテイ」表示にする。
ボタンを押すごとに、「タイマーモニター」と「タイマーセッテイ」の表示が切り替わります。
3. **[運転/停止]** ボタン①を押し、運転開始時間、運転終了時間の設定表示にする。
ボタン①を押すごとに、ON表示とOFF表示の表示が切り替わります。
 - ・ 入タイマー(運転開始時間の設定表示)：ON表示
 - ・ 切タイマー(運転終了時間の設定表示)：OFF表示
4. **[時間設定]** ボタン⑨を押し、入タイマー(運転開始時間)または切タイマー(運転終了時間)を設定する。
 - ・ 入タイマーまたは切タイマーのどちらか一方のみを設定する場合は、使用しないタイマー設定の時間は「—」表示の状態にしてください。
 - ・ 入切タイマーを両方使用するとき、運転開始/運転終了時間の両方の設定をしてください。
 - ・ 入切タイマーを同時間に設定することはできません。
 - ・ 設定範囲時間：1～72時間
 - ・ 設定した時間を取り消すときは、**[点検(クリア)]** ボタン⑩を押し、時間を「—」表示にした後、**[フィルター (←)]** ボタン④を押し確定させてください。
5. **[フィルター (←)]** ボタン④を押しして時間を確定する。

お知らせ

- ・ 確定せずに**[運転切換(戻る)]** ボタン②を押すことにより入力した内容をキャンセルできます。
6. **[運転切換(戻る)]** ボタン②を押し、タイマー設定を完了する。
 7. **[タイマー入切]** ボタン⑩を押し、タイマー運転を開始する。
設定された時間が表示されます。

4-4-2. 簡易タイマー設定を確認するとき



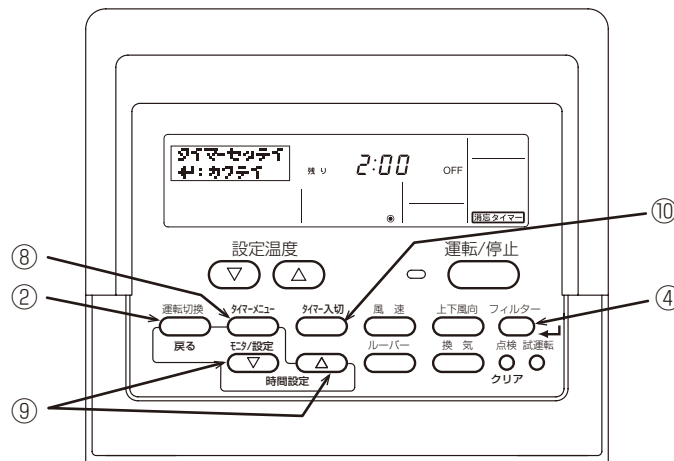
手順

1. 液晶に「簡易タイマー」表示が表示されていることを確認する。
2. [タイマーメニュー] ボタン⑧を押し、「タイマーモニター」表示にする。
ボタンを押すごとに、「タイマーモニター」と「タイマーセッテイ」の表示が切り替わります。
 - ・ 設定されている入タイマーまたは切タイマー時間が表示されます。
 - 入切タイマーを両方設定されているときは、両方の設定を交互に表示されます。
3. [運転切換(戻る)] ボタン②を押し、タイマーモニター表示を終了する。
通常画面に戻ります。
 - ・ ボタンを押さない場合も、約1分で自動的に通常画面に戻ります。

4-4-3. 簡易タイマー運転を解除(停止)するとき

[タイマー入切] ボタン⑩を押し、タイマー設定した時間表示を消した状態とします。

4-5. 消忘れ防止タイマー運転のしかた (ワイヤードリモコン)

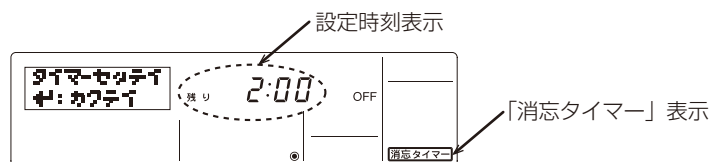


- 1) 消忘れ防止タイマーは運転開始後、設定された時間が経過したときに自動的にユニットを停止させます。
- 2) 消忘れ防止タイマー設定時は、簡易タイマーの設定はできません。
- 3) 消忘れ防止タイマー運転の設定範囲は、30分～4時間です。(設定時間は30分単位です。)

お知らせ

- ・ 下記の場合、タイマー運転は実行されません。
「タイマー停止中」「異常中」「試運転中」「リモコン診断中」
「機能選択中」「タイマー設定中」「集中管理中(運転/停止操作禁止)」
- ※ 簡易タイマー設定中も同様です。

4-5-1. 消忘れ防止タイマーの設定のしかた



手順

1. 液晶に「消忘れタイマー」表示が表示されていることを確認する。
2. [タイマーメニュー] ボタン⑧を3秒押し、「タイマーセッテイ」表示にする。
ボタンを押すごとに、「タイマーモニター」と「タイマーセッテイ」の表示が切り替わります。
3. [時間設定] ボタン⑨を押して、切タイマー（運転終了時間）を設定する。
4. [フィルター（←）] ボタン④を押して時間を確定させる。

お知らせ

- ・ 確定せずに [運転切換 (戻る)] ボタン②を押すことにより入力した内容をキャンセルできます。
5. [運転切換 (戻る)] ボタン②を押して、タイマー設定を完了する。
通常画面に戻ります。
 - ・ ユニットが運転状態になると、消忘れ防止タイマー運転開始となり、設定された時間が表示されタイマー運転を開始します。

4-5-2. 消忘れ防止タイマー設定を確認するとき

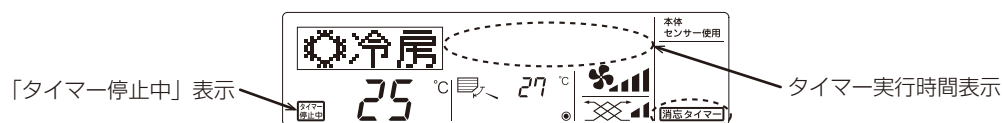


手順

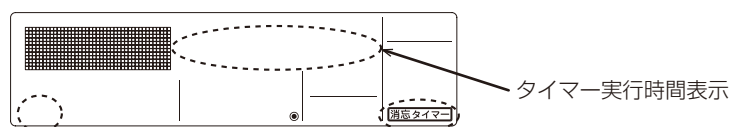
1. 液晶に「消忘れタイマー」表示が表示されていることを確認する。
2. [タイマーメニュー] ボタン⑧を3秒押し、「タイマーモニター」にする。
・ 設定されている切タイマー時間が表示されます。
3. [運転切換 (戻る)] ボタン②を押し、タイマーモニター表示を終了する。
通常画面に戻ります。

4-5-3. 消忘れ防止タイマーを解除 (停止) するとき

[タイマー入切] ボタン⑩を3秒押し、「タイマー停止中」を表示、タイマー実行時間表示を消灯させます。

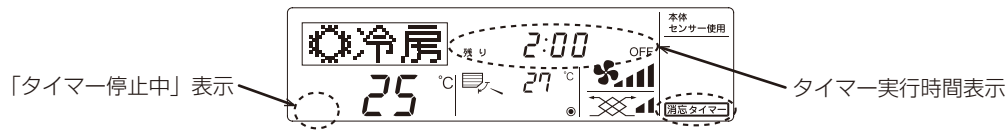


ユニットを停止させ、タイマー実行時間表示を消灯させます。

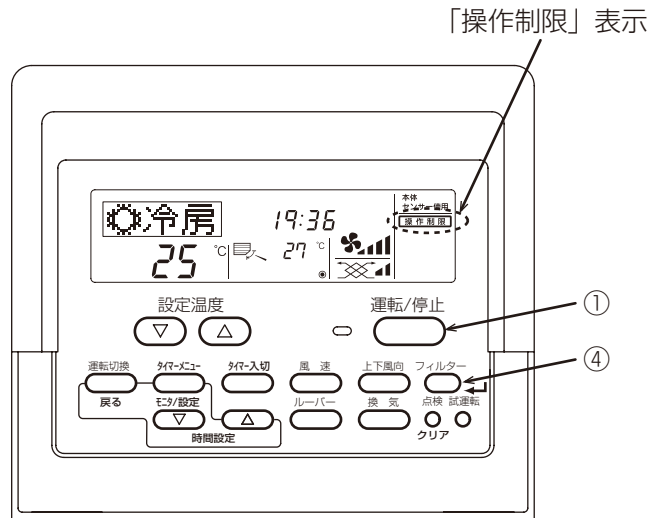


4-5-4. 消忘れ防止タイマーを設定するとき

- ・タイマー停止中に[タイマー入切]ボタン⑩を3秒押し、「タイマー停止中」を消灯、タイマー実行時間表示を点灯させます。
- ・ユニットを運転させ、タイマー実行時間を点灯させます。



4-6. 操作ロックのしかた (ワイヤードリモコン)



1) 簡易的にリモコンのボタン操作をロックすることができます。

(操作ロックの機能には次の2つがあります。)

リモコン機能選択で設定します。

リモコン機能選択での設定方法については、「4-8. リモコンの機能選択のしかた (ワイヤードリモコン) (25ページ)」を参照してください。

- ・全ボタンロック
リモコンのすべてのボタン操作をロックします。
- ・[運転/停止] ボタン以外ロック
[運転/停止] ボタン以外の操作をロックします。

お知らせ

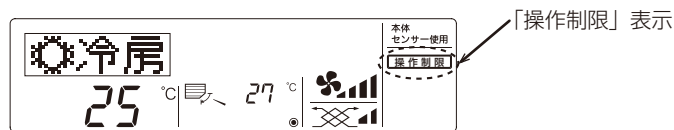
- ・操作ロック設定されている場合は、「操作制限」表示が点灯表示します。

4-6-1. 操作ロック設定のしかた

手順

1. [フィルター (←)] ボタン④を押しながら、[運転/停止] ボタン①を2秒押し。

「操作制限」表示が点灯します。



※ リモコン機能選択で、「操作ロック設定なし」が選択されている場合は「無効ボタン」が点灯表示します。

※ 操作ロック中に、ボタン操作をすると、「操作制限」表示が点滅表示します。



4-6-2. 操作ロック設定解除のしかた

手順

1. [フィルター (←)] ボタン④を押しながら、[運転/停止] ボタン①を2秒押す。
「操作制限」表示が消灯します。



4-7. その他の表示・点滅について (ワイヤードリモコン)

4-7-1. 集中管理中表示



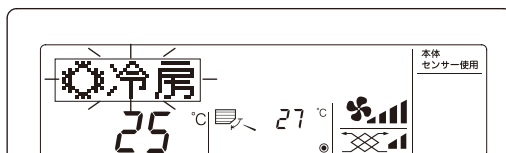
集中コントローラなどで、操作を制限しているときに「集中管理中」表示が表示します。制限される操作は以下のとおりです。

- ・ 運転/停止
- ・ 運転モード
- ・ 設定温度

お知らせ

- ・ 個々に制限される場合もあります。

4-7-2. 運転モードの点滅



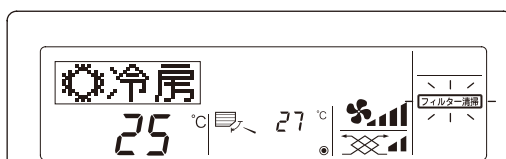
(1) 点滅のままの場合

室外ユニットに接続された他の室内ユニットが、すでに異なる運転モードで運転している場合に表示します。他の室内ユニットの運転モードに合わせてください。

(2) 点滅した後モードが切り替わる場合

集中コントローラなどで、運転モードの操作をシーズンごとに制限しているときに表示します。他の運転モードを使用してください。

4-7-3. フィルター清掃の点滅



- 1) フィルター清掃時期をお知らせします。
フィルター清掃を実施してください。

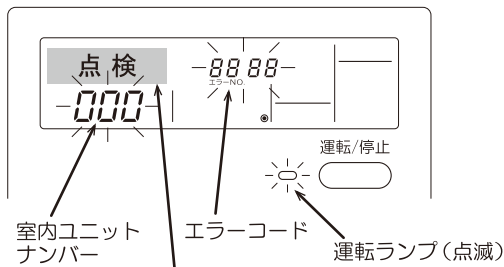
2) 「フィルター清掃」表示をリセットする場合

フィルター清掃後、[フィルター] ボタンを2度押すと表示が消えリセットされます。

お知らせ

- 2台以上の形で異なる室内ユニットを操作する場合、フィルタの種類によって、清掃時期が異なります。代表機種(親機)の清掃時期が来ると「フィルター清掃」表示が表示されます。また、「フィルター清掃」表示を消すと、すべての積算時間がリセットされます。
- 「フィルター清掃」表示は、一般的な室内での環境条件で使用した場合の清掃時期を目安時間で表示しているものです。環境条件によって、汚れの程度が異なりますので、汚れ具合に応じて清掃してください。
- フィルタ清掃時期の積算時間は、機種により異なります。
- 「フィルター清掃」表示が表示されていないときでも、フィルタを清掃した場合は、[フィルター] ボタンを2度押ししてください。積算時間がリセットされ、その時点から運転時間が積算されます。

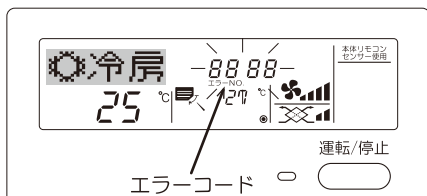
4-7-4. エラーコードの点滅



「異常時の連絡先」が設定されている場合は、連絡先の電話番号が表示されます。
設定方法については、「4-8. リモコンの機能選択のしかた(ワイヤードリモコン)(25ページ)」を参照してください。

「運転ランプ」と「エラーコード」の両方が点滅している場合はユニットに障害が発生し、運転を継続できずに停止しています。

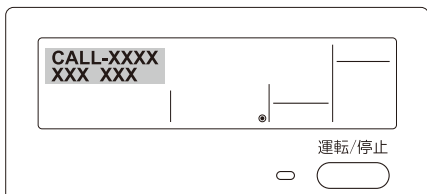
ユニットナンバー、エラーコードを確認のうえ、ユニットの電源を切り、お買上げの販売店(工事店・サービス店)にご連絡ください。



「エラーコード」のみが点滅している場合(運転ランプは点灯したまま)、ユニットは運転を継続していますが、障害が発生している可能性があります。

エラーコードを確認のうえ、お買上げの販売店(工事店・サービス店)にご連絡ください。

点検ボタン押し時の表示



※ 「異常時の連絡先」が設定されている場合は、点検ボタンを1回押しと連絡先の電話番号が表示されます。

設定方法については、「4-8. リモコンの機能選択のしかた(ワイヤードリモコン)(25ページ)」を参照してください。

4-8. リモコンの機能選択のしかた (ワイヤードリモコン)

リモコン機能選択モードでは下記の機能を設定変更できます。必要に応じ、設定変更をしてください。

大項目	中項目	小項目 (設定内容)
1. 言語切換 (CHANGE LANGUAGE)	表示する言語の設定をします。	・他言語表示ができます。
2. 機能制限	(1) 操作制限機能設定 (操作ロック)	・操作制限 (操作ロック) の範囲を設定します。
	(2) 自動モード使用設定	・運転モードの「自動」使用有無を設定します。
	(3) 温度範囲制限設定	・温度調節範囲 (上限・下限値) を設定します。
	(4) 昇降機能モード使用設定	・昇降機能モードの使用有無を設定します。 ※本機種にはこの機能が無いため、設定無効になります。
	(5) 風向固定モード使用設定	・風向固定モードの使用有無を設定します。 ※本機種にはこの機能が無いため、設定無効になります。
3. 基本機能	(1) リモコン主/従設定	・主リモコン、従リモコンを切り替えます。 ※1グループ2台接続時どちらか一方を「従」設定にします。
	(2) 時計使用設定	・時計機能の使用有無を設定します。
	(3) タイマー機能設定	・使用するタイマーの種類を設定します。
	(4) 異常時の連絡先設定	・異常発生時に連絡先の電話番号を表示させることができます。 ・電話番号の設定をします。
4. 表示切換	(1) 温度表示℃/°F設定	・表示する温度単位 (℃/°F) を設定します。
	(2) 吸込み温度表示設定	・室内 (吸込み) 温度表示の有無を設定します。
	(3) 自動冷暖表示設定	・自動モード運転時の「冷房」「暖房」表示有無を設定します。

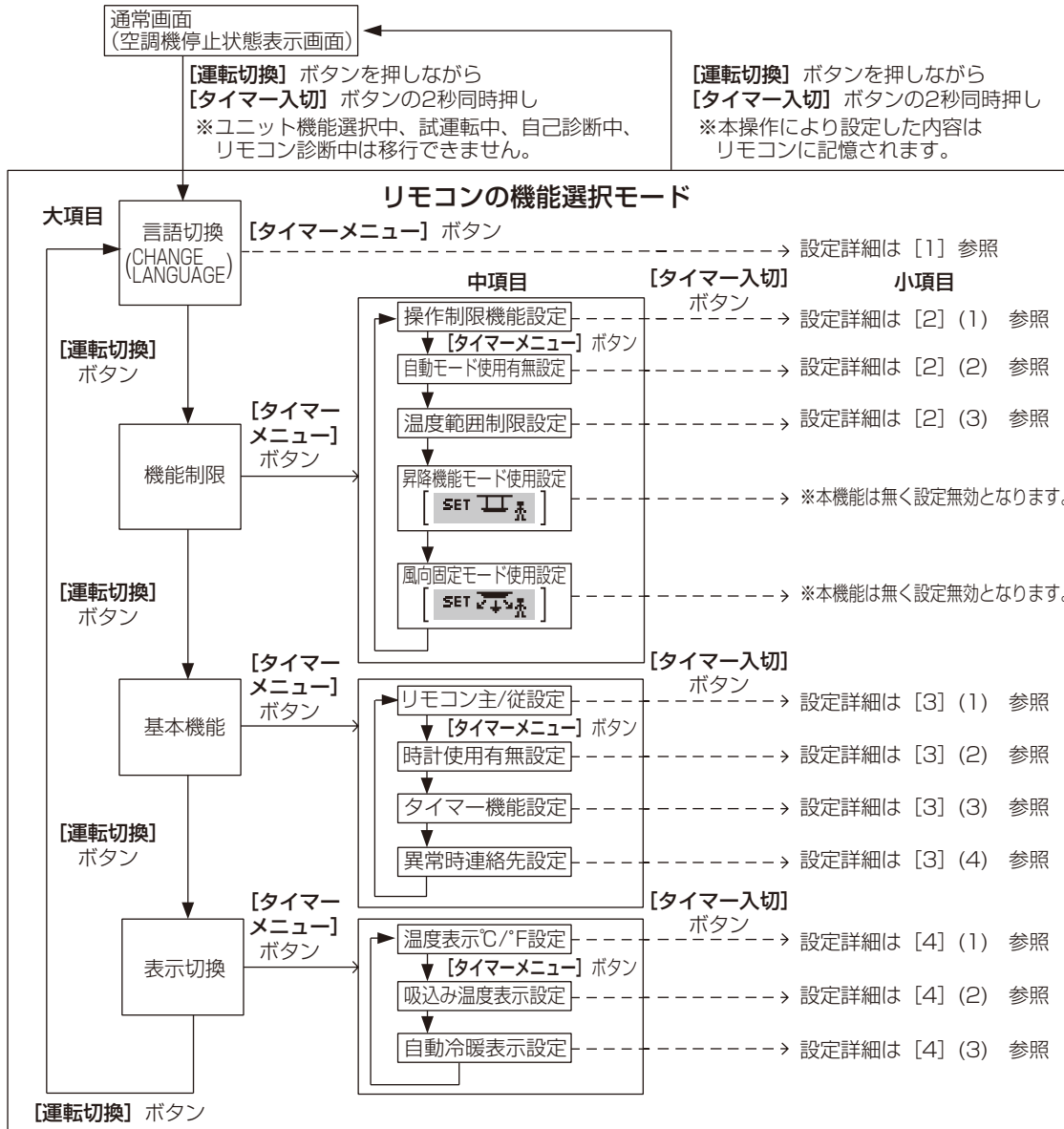
機能選択の流れ

手順

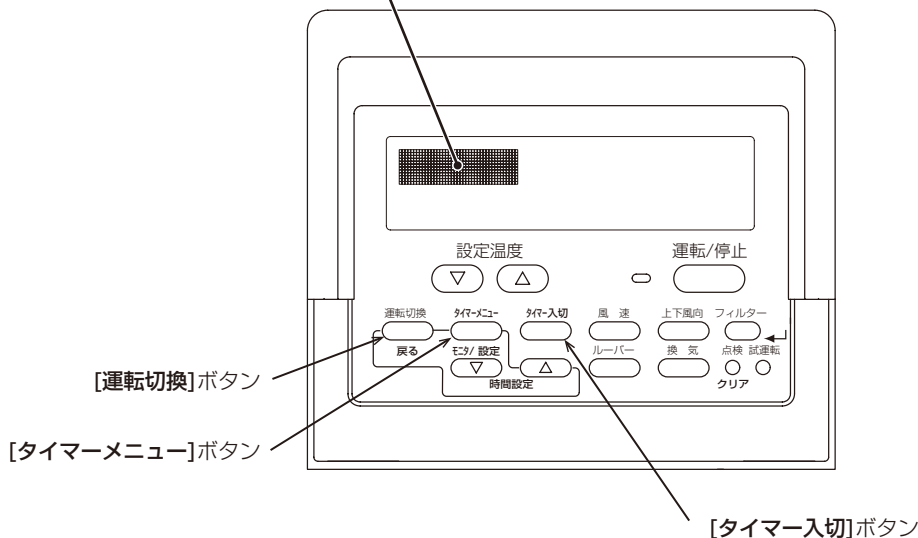
1. ユニットが運転中の場合、**[運転/停止]** ボタンを押す。
ユニットが停止します。
2. **[運転切換]** ボタンを押しながら **[タイマー入切]** ボタンを2秒間押す。
リモコン機能選択モードになります。
3. **[運転切換]** ボタンを押して大項目を選択する。
4. **[タイマーメニュー]** ボタンを押して決定する。
選択した大項目に対応するドット表示が表示します。
5. **[タイマーメニュー]** ボタンを押して中項目を選択する。
6. **[タイマー入切]** ボタンを押して決定する。
7. **[タイマー入切]** ボタンを押して小項目 (内容) を選択する。
8. **[運転切換]** ボタンを押しながら **[タイマー入切]** ボタンを2秒間押す。
通常画面に戻ります。

お知らせ

- ・リモコン機能選択から通常画面に移行すると、タイマー運転は停止します。



ドット表示部 (ドット表示は言語切替で設定した言語を表示します。本説明書は“日本語”を設定した場合のドット表示を示しています。)



設定詳細

[1] 言語切替設定

本設定により、ドット表示部に表示する言語を設定します。

[タイマーメニュー] ボタンを押して下記内容を切り替えます。

- ①日本語 (JP)、②英語 (GB)、③ドイツ語 (D)、④スペイン語 (E)、⑤ロシア語 (RU)、⑥イタリア語 (I)、
- ⑦中国語 (CH)、⑧フランス語 (F)

[2] 機能制限設定

(1) 操作制限機能設定 (操作ロック)

[タイマー入切] ボタンを押して下記内容を切り替えます。

- ① no1 : **[運転/停止]** ボタン以外操作ロック設定となります。
- ② no2 : 全ボタン操作ロック設定となります。
- ③ OFF (初期設定値) : 操作ロック設定なしとなります。

※ 通常画面で操作ロックを実行するには、上記設定後に通常画面で実行操作 (**[フィルター]** ボタンと **[運転/停止]** ボタン同時2秒押し) が必要です。

(2) 自動モード使用設定

運転モード自動有りユニットに接続されている場合、下記内容の設定をすることができます。

[タイマー入切] ボタンを押して下記内容を切り替えます。

- ① ON (初期設定値) : 運転モード選択操作時に自動モードを表示します。
- ② OFF : 運転モード選択操作時に自動モードを表示しません。

(3) 温度範囲制限設定

設定内容変更後は、変更した範囲内で温度変更が可能となります。

[タイマー入切] ボタンを押して下記内容を切り替えます。

- ① 冷房モード : 冷房・ドライモードでの設定温度範囲を変更します。
- ② 暖房モード : 暖房モードでの設定温度範囲を変更できます。
- ③ 自動モード : 自動モードでの設定温度範囲を変更できます。
- ④ OFF (初期設定値) : 温度範囲制限は実行されません。

※ OFF以外が設定された場合、冷房、暖房、自動モードの温度制限設定が同時に実行されます。ただし、設定温度範囲が変更されていなければ制限は実行されません。

[設定温度▽] ボタン、または **[設定温度△]** ボタンを押すごとに設定値がアップ、ダウンします。

[風速] ボタンを押して上限値設定、下限値設定を選択を切り替えます。選択された設定内容は点滅表示しており、この温度値を設定します。

設定範囲

冷房・ドライモード	: 下限値: 19℃～30℃	上限値: 30℃～19℃
暖房モード	: 下限値: 17℃～28℃	上限値: 28℃～17℃
自動モード	: 上限値: 19℃～28℃	下限値: 28℃～19℃

※ 設定範囲は接続されるユニット (スリム機種、マルチ機種、中温機種など) により異なります。

[3] 基本機能設定

(1) リモコン主/従設定

[タイマー入切] ボタンを押して下記内容を切り替えます。

- ① 主 : 主設定となります。
- ② 従 : 従設定となります。

(2) 時計使用設定

[タイマー入切] ボタンを押して下記内容を切り替えます。

- ① ON : 時計機能が使用可能となります。
- ② OFF : 時計機能が使用不可となります。

(3) タイマー機能設定

[タイマー入切] ボタンを押して下記内容を切り替えます (いずれか一つを選択)。

- ① タイマー消忘れ防止 : 消忘れタイマー使用可能となります。
- ② タイマー簡易 (初期設定値) : 簡易タイマー使用可能となります。
- ③ タイマー無効 : タイマー未使用設定となります。

(4)異常時連絡先設定

[タイマー入切] ボタンを押して下記内容を切り替えます。

- ① CALL・OFF :異常中に設定した電話番号は表示されません。
- ② CALL・0120 *** **** :異常中に設定した電話番号が表示されます。
- CALL・_ :左記表示時、電話番号を設定します。

電話番号設定方法

設定時に下記設定操作により電話番号を設定します。点滅しているカーソル()を移動して、数字を設定します。[設定温度△] ボタンまたは[設定温度▽] ボタンを押してカーソルを右(左)に移動させます。[時刻設定△] ボタンまたは[時刻設定▽] ボタンを押して、番号を設定します。

[4] 表示切替設定

(1)温度表示C/°F設定

[タイマー入切] ボタンを押して下記内容を切り替えます。

- ① °C :温度表示単位をセ氏表示にします。
- ② °F :温度表示単位を華氏表示にします。

(2)吸込み温度表示設定

[タイマー入切] ボタンを押すごとに下記の順で設定する内容を切り替えます。

- ① ON :吸込温度が表示されます。
- ② OFF :吸込温度は表示されません。

(3)自動冷暖表示設定

[タイマー入切] ボタンを押すごとに下記の順で設定する内容を切り替えます。

- ① ON :自動モード運転時、「自動冷房」または「自動暖房」表示のどちらかが表示されます。
- ② OFF :自動モード運転時、「自動」のみが表示されます。

4-9. ワイヤレスリモコンを使用する場合

ワイヤレスリモコンの操作方法については、ワイヤレスリモコンに付属の取扱説明書、および据付工事説明書を参照してください。

お願い

- ・ ワイヤレスリモコンは、室内ユニットの受光部に向かって送信してください。
- ・ 電源を入れてすぐにワイヤレスリモコン操作をした場合、室内ユニットから“ピピピッ”または“ピーピーピー”と発信音がすることがあります。初期自動点検中ですので約3分間待ってください。
- ・ 受光部付近の運転ランプが点滅しているときは点検が必要です。
お買上げの販売店へ連絡してください。
- ・ ワイヤレスリモコンを落としたり、衝撃を与えないでください。また、水にぬらしたり湿度の高いところに置かないでください。
- ・ 紛失防止のためにリモコンホルダ(リモコンに付属)を壁に固定し、使用後は元に戻すようにしてください。

お知らせ

- ・ ワイヤレスリモコン送信部の信号が受光部へ届き、室内ユニットから“ピッ”と音を出してお知らせします。この信号の届く範囲は直線方向で約7m左右方向約45°程度です。また、蛍光灯などの照明や強い光の影響を受けて、信号が届きにくくなる場合があります。
- ・ 喚気単独運転はできません。

4-10. その他の操作について

4-10-1. 長期間使用しないとき

[1] 運転停止の方法

手順

1. 4～5時間、送風運転して室内ユニット内部を乾燥させる。
2. 室内ユニットの電源を切る。
 - ・電源が入っていると数ワット～数十ワットの電力が消費されます。
3. ワイヤレスリモコン使用の場合、リモコンから乾電池を取り出す。

[2] 再度使い始めるとき

下記手順1～4の点検を行い、異常のないことを確認後、電源を入れてください。

- ・ユニットの電源を「入」にしてから12時間以上経過後、運転を開始してください。

手順

1. フィルタを清掃して、取り付ける。
 - ・フィルタの清掃は専門の業者に依頼してください。
2. 室内・室外ユニットの吹出口・吸込口が塞がれていないことを確認する。
3. アース線が外れていないことを確認する。
室内ユニットにも取り付けてある場合があります。


お願い

- ・再度アース工事をする場合は販売店(工事店・サービス店)に相談してください。
4. ドレンホースの折曲がり、先端の持ち上がり、詰まりなどがないことを確認する。
 5. 運転開始の12時間以上前からユニットの電源を「入」にする。
(電源を入れる場合は、外気温度が－20℃より高い条件で実施してください。)


5. お手入れ

警告


殺虫剤・可燃性スプレーなどを製品の近くに置いたり、直接吹付けないこと。
 ◆変形・引火・火災・爆発のおそれあり。

 禁止


運転中および運転停止直後の冷媒配管・冷媒回路部品に素手で触れないこと。
 ◆冷媒は循環過程で低温または高温になるため、素手で触れると凍傷・火傷のおそれあり。

 接触禁止


運転中および運転停止直後の電気部品に素手で触れないこと。
 ◆火傷・感電のおそれあり。

 接触禁止


ユニットを水・液体で洗わないこと。
 ◆ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

 水ぬれ禁止


電気部品に水・液体・洗浄スプレー液をかけないこと。
 ◆ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

 水ぬれ禁止


ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。
 ◆感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

 ぬれ手禁止


フィルター清浄・交換など、高所では足を踏み外さないように作業すること。
 ◆落下・転倒し、けがのおそれあり。

 指示を
実行


掃除・整備・点検をする場合、運転を停止して、主電源を切ること。
 ◆けが・感電のおそれあり。
 ◆回転機器により、けがのおそれあり。

 指示を
実行

薬品を散布する前に運転を停止し、ユニットにカバーを掛けること。
 ◆薬品がユニットにかかると、運転時にけがのおそれあり。
 ◆薬品がユニットにかかって損傷すると、けが・感電のおそれあり。


 指示を
実行

端子箱や制御箱のカバーまたはパネルを取り付けること。
 ◆ほこり・水による感電・発煙・発火・火災のおそれあり。


 指示を
実行

注意

フィルターを取り外す場合、保護具を身につけること。
 ◆ほこりが目に入り、けがのおそれあり。

 指示を
実行

フィルターの点検・清掃は専門業者がすること。
 ◆けがのおそれあり。

 指示を
実行

[1] お手入れのまえに
 電源を「切」にしてください。

- [2] 室内ユニット、リモコンの清掃
- ・ やわらかい布でから拭きをしてください。
 - ・ 風向ベーンは手で強く引っ張ったり押ししたりしないでください。故障の原因になります。
 - ・ リモコン線を引っ張ったり、ねじったりしないでください。
 また、リモコンケースは取り外さないでください。

- ・手あか、油類の場合は、家庭用の中性洗剤（食器用または洗濯用）を布などに少量ふくませて使用し、中性洗剤が残らないように拭き取ってください。
- ・ガソリン・ベンジン・シンナー・みがき粉・酸性／アルカリ性洗剤などは製品を傷めますので、絶対使用しないでください。

[3] フィルタの清掃

警告

お手入れのときは不安定な台に乗らないこと。

- ◆落下・転倒し、けがのおそれあり。



禁止

掃除・整備・点検をする場合、運転を停止して、主電源を切ること。

- ◆けが・感電のおそれあり。
- ◆回転機器により、けがのおそれあり。



指示を
実行

フィルター清掃・交換など、高所では足を踏み外さないように作業すること。

- ◆落下・転倒し、けがのおそれあり。



指示を
実行

注意

部品端面・ファンや熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- ◆けがのおそれあり。



接触禁止

フィルターを取り外す場合、保護具を身につけること。

- ◆ほこりが目に入り、けがのおそれあり。



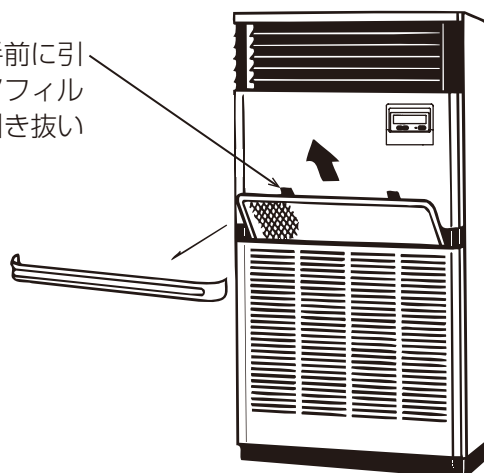
指示を
実行

お願い

- ・フィルタ清掃は専門の業者に依頼してください。
- ・フィルタを取り外した状態で運転をしないでください。内部にごみなどが詰まり、故障のおそれがあります。

(1) フィルタの取外しかた

フィルタカバーを手前に引いて取り外し、エアフィルタは手前斜め上に引き抜いてください。



(2) フィルタの清掃手順

手順

1. フィルタのほこりを掃除機で吸い取るか、水洗いする。

- 硬いブラシやタワシでこすらないでください。変形することがあります。
 - 汚れがひどいときは、中性洗剤を溶かした、ぬるま湯ですすいでください。
 - 直射日光や火にあてて乾かさないうでください。
 - 熱い湯（約50℃以上）で洗わないでください。変形することがあります。
2. 水洗いしたあと、日陰でよく乾かす。
- フィルタは直接日光や直接火にあてて乾かさないうでください。
3. フィルタを元の状態に取り付ける。（取外しの逆の手順）

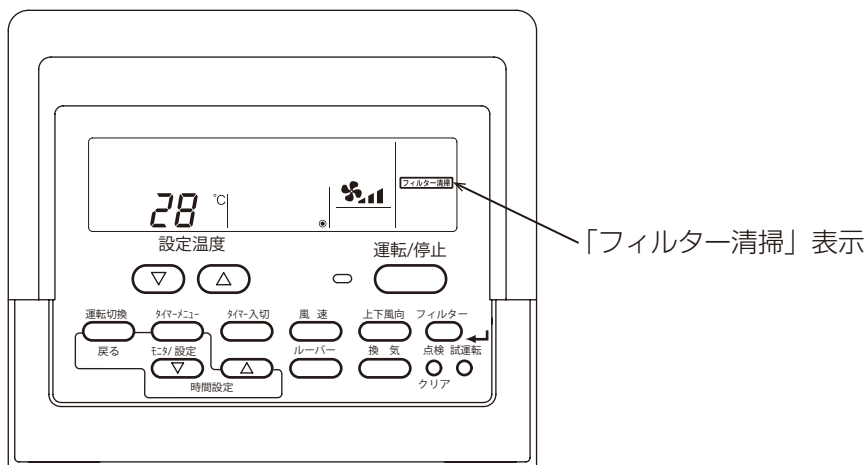
(3) フィルタの清掃時期

お願い

- エアフィルタは一週間に一度（特にほこりの多い所ではそれ以上）清掃してください。
- フィルタが詰まると冷暖房効果が低下し、そのまま運転を続けると故障の原因になります。
- フィルタは、一般的な室内での空気条件で使用した場合の清掃時期を、フィルタの種類ごとに目安時間で表示しているものです。
環境の空気条件によって汚れの程度が異なりますので、汚れ具合に応じて清掃してください。

お知らせ

- ワイヤードリモコンの場合は「フィルター清掃」表示を点滅させて清掃時期をお知らせします。



- フィルタ清掃後【フィルター】ボタンを2度押すと表示が消えリセットされます。フィルタ清掃をしてから表示を消してください。
- 「フィルター清掃」が表示されていないときでも、フィルタを清掃した場合は、【フィルター】ボタンを2度押ししてください。積算時間がリセットされ、その時点から運転時間が積算されます。

6. 定期点検のお願い

本製品は、長期間の使用に伴い、製品を構成する部品に生ずる経年劣化などにより、安全上支障が生じるおそれがあります。

本製品を良好な状態で長く安心してご利用いただくために、サービス会社と保守契約を結び、定期的に点検することをお勧めします。

当社指定のサービス会社と保守契約(有料)いただければ、専門のサービスマンがお客様に代わって保守点検をいたします。万一の故障時も早期に発見し、適切な処理を行います。

点検のご依頼・ご相談は、別紙の「三菱電機 修理窓口・ご相談窓口のご案内」にご連絡ください。

JRA* GL-14「冷凍空調機器の冷媒漏えい防止ガイドライン」に基づく冷媒漏えい点検のお願い

本製品を所有されているお客様に、製品の性能を維持していただくために、また、冷媒フロン類を適切に管理していただくために、定期的な冷媒漏えい点検(保守契約などによる、遠隔からの冷媒漏えいの確認などの、総合的なサービスも含む)(いずれも有料)をお願いいたします。

定期的な漏えい点検では、漏えい点検資格者によって「漏えい点検記録簿」へ、機器を設置したときから廃棄するときまでのすべての点検記録が記載されますので、お客様による記載内容の確認とその管理(管理委託を含む)をお願いいたします。

なお、詳細は下記のサイトを参照してください。*JRA: 一般社団法人 日本冷凍空調工業会

- JRA GL-14 について、<https://www.jraia.or.jp/info/gl-14/index.html>
- 冷媒フロン類取扱技術者制度について、http://www.jarac.or.jp/business/cfc_leak/

様式1 冷媒漏えい点検記録簿(汎用版)

年 月 日 ~ 年 月 日

管理番号	
------	--

施設所有者				設備製造者						
施設名称			系統名	設置年月日						
施設所在地			電話	使用機器		型式	製品区分			
運転管理責任者			電話			製番	設置方式	現地施工		
点検事業者	会社名		責任者			用途	検知装置			
	所在地		電話							
使用冷媒		初期充てん量(kg)		点検周期	基準		実績(月)			
冷媒量(kg)		合計充てん量	合計回収量	合計排出量	排出係数(%)					
作業年月日	点検理由	充てん量(kg)	回収量(kg)	監視・検知手段(最終)	センサー型式	センサー感度	資格者名	資格者登録No.	チェックリストNo.	確認者

7. 製品独自のお願ひ事項

7-1. 廃棄について

警告

ユニットの廃棄は、専門業者に依頼すること。

- ◆ 充てんした油や冷媒を取り除いて廃棄しないと、環境破壊・火災・爆発のおそれあり。



指示を
実行

注意

ユニット内の冷媒は回収すること。

- ◆ 冷媒は再利用するか、処理業者に依頼して廃棄すること。
- ◆ 大気に放出すると、環境破壊のおそれあり。



指示を
実行

この製品はフロン排出抑制法・第一種特定製品です。

- ・ フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
- ・ この製品を廃棄する場合には、フロン類の回収が必要ですので、専門の回収業者に依頼してください。

7-2. 移設時の据付場所について

警告

当社指定の冷媒以外は絶対に封入しないこと。

- ◆ 使用時・修理時・廃棄時などに、破裂・爆発・火災のおそれあり。
- ◆ 法令違反のおそれあり。

封入冷媒の種類は、機器付属の説明書・銘板に記載し指定しています。
指定冷媒以外を封入した場合の不具合・事故に関して当社は一切責任を負いません。



禁止

改造はしないこと。ユニットの移設・分解・修理は販売店または専門業者に依頼すること。

- ◆ 冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

- ・ 増改築・引越しのため、製品を取外し、再据付けをする場合は、移設のための専門の技術や工事の費用が別途必要になります。事前に、お買い上げの販売店(工事店)、または指定のサービス店、またはメーカー指定のお客様相談窓口(別紙)に相談してください。
- ・ ユニットの移設時は、販売店または専門業者に依頼し、据付場所は「据付工事説明書」に従って選定してください。

[1] 運転音にも配慮を

- ・ 据付けにあたっては、ユニットの質量に耐え、振動が増大しない場所を選んでください。
- ・ 室外ユニットの吹出口からの冷温風や運転音が隣家の迷惑にならない場所を選んでください。
- ・ 室外ユニットの吹出口の近くには物を置かないでください。
性能低下や運転音増大の原因になります。

8. 据付工事の確認と試運転

- 本製品の据付工事は、販売店（工事店）が関連法規・資格に基づき実施しております。
- 販売店（工事店）が試運転を行う際、立ち会ってください。
- 運転手順、安全を確保するための正しい使い方について、販売店（工事店）から説明を受けてください。
- 据付工事が完了後、次の事項をお客様自身でも確認してください。

内容	チェック欄
• 「安全のために必ず守ること」について説明を受けましたか。	
• 運転手順、安全を確保するための正しい使い方についての説明を受けましたか。	
• 試運転に立ち会いましたか。	
• 据付工事説明書の据付工事のチェックリストがチェックされていることを確認しましたか。	

9. 仕様

50/60Hz

		床置形	
		224形	280形
室内ユニット	室内ユニット形名 (冷暖房・冷房専用形共通)		
	電 源	室外ユニットからの電源重畳 (AC200V)	
	騒 音 <PWL> : 強-弱 dB	70-67	72-71
	標準風量 : 強-弱 m ³ /min	55-44	75-60
	標準機外静圧 Pa	0	0
	外形寸法 (高さ×巾×奥行) mm	1850×985×400	1850×1200×400
	質量 (本体+パネル) kg	112	121

- 50Hz、60Hz用です。
- 電気特性は製品に貼付している製品銘板に記入しています。
- 騒音値はA特性値です。

10. 修理を依頼する前に

- 以下のことをお調べになって、それでも不具合があるときはご使用を中止し、配線用遮断器(ブレーカー)を切(OFF)にしてから、お買上げの販売店(工事店・サービス店)にご連絡ください。

現象	原因の確認	処置方法
よく冷えない。 よく暖まらない。	フィルタが汚れ、目詰まりして風量が低下している。	フィルタの清掃をしてください。
	設定温度が高くまたは低くなっている。	温度調節を確認して、設定温度を調節してください。
	室内ユニットの吹出口・吸込口が塞がれている。	室内ユニット周囲空間を広く開けてください。
	窓やドアが開いている。	窓やドアを閉めてください。
	風速を弱・自動で運転している場合、冷えや暖まりが弱い場合があります。	風速を中・強に変更してください。
	圧縮機の予熱中です。外気温度が-20℃より低い条件で電源を入れた場合、最大で12時間運転できない場合があります。	—
暖房運転にしたとき、すぐに風がでない。 暖房準備中表示がでる。	暖かな風をおとどけるため準備中です。	そのまま待ってください。
冷房・ドライ・自動冷房運転中に風が止まる。 運転開始時にすぐに風がでない。	冷たい風をおとどけるための準備です。	—
暖房運転中、設定温度になっていないが運転が止まる。	外気温度が低く、湿度が高いときに室外ユニットに霜が付きます。この霜を溶かしています。	そのまま約10分ほど待ってください。
水の流れるような音やときどき“ブシュ”と音がする。	ユニット内部の冷媒が流れている音や、冷媒の流れが切り替わるときの音です。異常ではありません。	もし気になるような音の場合は、お買上げ販売店に相談してください。
“ピシッ、ピシッ”という音がする。	温度変化で部品などが膨張・収縮して、こすれる音です。異常ではありません。	もし気になるような音の場合は、お買上げ販売店に相談してください。
部屋がにおう。	室内ユニットが壁やじゅうたん、家具から発生するガス、または衣類などにしみ込んだ臭いを吸い込んで、風を吹き出すためです。	—
室内ユニットより白い霧状の水蒸気が出る。	室内の温湿度が高い場合、運転の始めにこのような現象が起こる場合があります。異常ではありません。	—
	霜取運転時、冷気が下りてきて霧状に見えることがあります。	—
室外ユニットより水・水蒸気が出る。	冷房時に冷えた配管や配管接続部に水滴がつき滴下するためです。	—
	暖房時に熱交換器についた水が滴下するためです。	—
	霜取時に熱交換器についた水が蒸発し、水蒸気が出る場合があります。	—
リモコンの運転表示が点灯しない。	室内ユニットの配線用遮断器(ブレーカ)が切(OFF)になっています。	配線用遮断器(ブレーカ)を入(ON)にしてください。 ユニットの電源が入っていないと、リモコンに通電表示(●)が点灯しません。
リモコン表示部に「集中管理中」の表示がでている。	「集中管理中」の表示が点灯中はリモコンでの運転、停止、運転モード、設定温度のいずれかが禁止となっています。	—
再運転のために停止後すぐに【運転・停止】ボタンを押したが、すぐに運転を再開しない。	ユニットを保護するため、マイコンの指示で止まっています。	再運転をした場合は、運転するまで約3分間待ってください。
【運転・停止】ボタンを押さないのに動き出した。	入タイマー運転をしている。	【運転・停止】ボタンを押して停止してください。
	遠方コントロールが接続されている。	運転を指示したところへ連絡・確認してください。
	「集中管理中」の表示が点灯している。	運転を指示したところへ連絡・確認してください。
	停電自動復帰が設定されている。	【運転・停止】ボタンを押して停止してください。

10. 修理を依頼する前に

現象	原因の確認	処置方法												
[運転・停止] ボタンを押さないのに停止した。	切タイマー運転をしている。	[運転・停止] ボタンを押して運転を再開してください。												
	遠方コントロールが接続されている。	停止を指示したところへ連絡・確認してください。												
	「集中管理中」の表示が点灯している。	停止を指示したところへ連絡・確認してください。												
停止ボタンを押したのに室外機が動いている。	運転停止後の霜取を行っているためです。	—												
リモコンのタイマー運転がセットできない。	タイマー設定が無効となっている。 タイマー設定が有効なときは、「簡易タイマー」、「消忘タイマー」のいずれかが表示されています。	—												
リモコンに“PLEASE WAIT”の表示が出る。	初期設定(約3分)を行っています。	そのまま待ってください。												
リモコンにエラーコードが表示される。	ユニットに障害が発生し、運転を継続できずに停止しています。	自分では絶対に修理しないでください。 ユニットの電源を切り、お買上げ販売店に製品名・リモコン表示内容を連絡してください。												
騒音が仕様値よりも高い。	室内の運転音は反響などにより、無響室で測定した仕様値よりも一般的に次に示す値ほど高くなります。(SPL値)	—												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>吸音効果の高い部屋</th> <th>普通の部屋</th> <th>吸音効果の低い部屋</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般例</td> <td>放送スタジオ、音楽室など</td> <td>応接室、ホテルロビーなど</td> <td>オフィス、ビジネスホテル</td> </tr> <tr> <td>騒音アップ値</td> <td>3～7dB</td> <td>6～10dB</td> <td>9～13dB</td> </tr> </tbody> </table>		吸音効果の高い部屋	普通の部屋	吸音効果の低い部屋	一般例	放送スタジオ、音楽室など	応接室、ホテルロビーなど	オフィス、ビジネスホテル	騒音アップ値	3～7dB	6～10dB	9～13dB	
	吸音効果の高い部屋	普通の部屋	吸音効果の低い部屋											
一般例	放送スタジオ、音楽室など	応接室、ホテルロビーなど	オフィス、ビジネスホテル											
騒音アップ値	3～7dB	6～10dB	9～13dB											
ワイヤレスリモコンの表示がでない、薄い、受光部に近付けないと受信しない。	乾電池が消耗しています。	乾電池を交換し、リセットボタンを押してください。 ※ 新しい乾電池でも表示の出ない場合は、乾電池の入れ方(+、-)を再度確認してください。												
ワイヤレスリモコン受光部の運転/停止ランプが点滅する。	ユニットに障害が発生し、運転を継続できずに停止しています。	自分では、絶対に修理しないでください。 ユニットの電源を切り、お買上げ販売店に製品名を連絡してください。												
製品のプラスチックが変色している。	日光の反射などによる紫外線や温度などにより変色することがあります。 製品の使用には問題ありません。	—												

11. 法令関連の表示

11-1. 標準的な使用条件

- 使用温度の範囲から外れたところで使用しますと、ユニットが異常停止したり、故障の原因となります。
スリムZR・スリムER・冷房専用・ズバ暖スリムシリーズの運転使用温度範囲

		室内	天井内 ^{※1}	室外
冷房・ドライ	乾球温度	19℃～32℃	～30℃	-5℃ ^{※2} ～52(50)℃ ^{※3}
	湿球温度	15℃～23℃	～80% (相対湿度)	—
暖房	乾球温度	17℃～28℃	—	-20(-25)℃ ^{※4} ～21℃
	湿球温度	—	—	-20(-25)℃ ^{※4} ～15℃

※1 床置形などの露出タイプは除く。

※2 別売のエアーガイドで室外ユニット吸込温度-15℃までの年間冷房運転可能。

※3 ()はP224, P280形およびズバ暖スリムでの温度です。

※4 ()はズバ暖スリムの温度です。

- 室外ユニットの使用温度範囲は室外ユニットにより上表と異なることがあります。各室外ユニットの使用温度範囲はカタログ・仕様書などで確認してください。

以下のような場合には経年劣化を促進させ、設計標準使用期間よりも早期に運転上支障を生じるおそれがあります。

- 製品の使用条件または使用頻度に係る実際の数値が算定の根拠となった数値よりも高い場合
- 目的外の用途に使用された場合
- 標準的な使用環境と異なる環境で使用された場合

[1] 保守点検契約のおすすめ

ユニットを数シーズン使用すると、内部が汚れて性能が低下します。臭いが発生したり、ごみやほこりなどによりドレンホースが詰り、異常停止することがあります。さらに補助電気ヒータ付き機種は、ヒータにごみやほこりなどが付着することがあります。

通常のお手入れとは別に保守点検契約をおすすめします。

11-2. 点検と保全周期の目安

保全周期は保証期間ではありません。

主要部品名	点検周期	保全周期 [交換または修理]
圧縮機	1年	20,000時間
モータ(ファン、ルーバ、ドレンポンプ用など)		20,000時間
ベアリング		15,000時間
電子基板類		25,000時間
熱交換器		5年
膨張弁		20,000時間
バルブ(電磁弁、四方弁など)		20,000時間
センサ(サーミスタ、圧力センサなど)		5年
ドレンパン		8年

- 本表は主要部品を示します。詳細は保守点検契約に基づいて確認してください。
- この保全周期は、製品を長く安心して使用するために、保全行為が生じるまでの目安期間を示しています。適切な保全設計(保守点検費用の予算化など)のために役立ててください。また保守点検契約の契約内容によっては本表よりも、点検・保全周期が短い場合があります。
- 保守点検の内容は契約会社によって若干異なる場合がありますので、契約時に確認してください。
- 使用環境、使用条件によりドレンパンの清掃や抗菌剤投入が必要になる場合があります。

前ページの表は次の使用条件が前提となります。

- ・ 頻繁な発停のない、通常の使用状態であること。
(機種によりこととなりますが、通常の使用における発停の回数は、6回/時間以下を目安としています。)
- ・ 製品の運転時間は、10時間/日、2500時間/年と仮定しています。(氷蓄熱など夜間に運転するものはこれより長くなる場合があります。)

また、下記の項目に適合するときには、「保全周期」および「交換周期」の短縮を考慮してください。

- ・ 温度・湿度の高い場所、あるいはその変化の激しい場所で使用する場合。
- ・ 電源変動(電圧、周波数、波形歪みなど)が大きい場所で使用する場合(許容範囲外での使用はできません。)
- ・ 振動、衝撃が多い場所に設置して、使用する場合。
- ・ ほこり、塩分、亜硫酸ガスおよび硫化水素などの有害ガス・オイルミストなど良くない雰囲気を使用する場合。
- ・ 頻繁な発停のある場所、運転時間の長い場所。(24時間空調など)

11-3. 消耗部品の交換周期目安

交換周期は保証期間ではありません。

主要部品名	点検周期	交換周期
ロングライフフィルタ	1年	5年
高性能フィルタ		1年
ファンベルト		5,000時間
平滑コンデンサ		10年
ヒューズ		10年
加湿エレメント(自然蒸発式)		3年
加湿エレメント(透湿膜式)		5年
クランクケースヒータ		8年
ドレンパン抗菌剤(標準搭載機種の場合のみ)		3年
オイルフィルタエレメント		随時

- ・ 本表は主要部品を示します。詳細は保守点検契約に基づいて確認してください。
- ・ この交換周期は、製品を長く安心して使用するために、交換行為が生じるまでの目安期間を示しています。適切な保全設計(部品交換費用の予算化など)のために役立ててください。
- ・ 加湿エレメントは交換が必要な消耗部品です。表は供給水質が市水・上水で硬度70以下の場合の、交換の目安を示します。供給水中の硬度、イオン状シリカ、酸消費量が多い場合、加湿エレメントの劣化が早まります。劣化すると加湿能力の低下、変色、白粉発生などが現れることがあります。
- ・ 使用環境、使用条件により抗菌剤の交換周期の短縮を考慮してください。
- ・ 保守点検の内容は契約会社によって若干異なる場合がありますので、契約時に確認してください。

12. 保証とアフターサービス

■ 保証書

- 保証書は室内ユニットに添付しております。セットでお買い上げになった室内ユニット・室外ユニット・リモコンを保証します。
- 保証書は、必ず「お買い上げ日(据付日または試運転完了日)・販売店名(工事店名)」などの記入をお確かめのうえ、販売店(工事店)からお受け取りください。保証書は内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日(据付日または試運転完了日)から1年間です

- 保証期間内でも有料になることがありますので、保証書をよくお読みください。
- 製品の故障もしくは不具合より発生した、冷却温度上昇による健康障害や食品劣化、水漏れなどによる家財破損などの付随的損害の責については、ご容赦ください。

■ 補修用性能部品の保有期間

- 当社は、この製品の補修用性能部品の製造打切り後10年保有しています。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■ ご不明な点や修理に関するご相談は

- お買い上げの販売店(工事店・サービス店)か「三菱電機 修理窓口・ご相談窓口」(別紙)にご相談ください。(所在地、電話番号などについては変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。)

■ 修理を依頼されるときは(出張修理)

- 「修理を依頼する前に」(37ページ)にしたがってお調べください。
- なお、不具合があるときは、ご使用を中止し必ず配線用遮断器(ブレーカー)を切(OFF)にしてから、お買い上げの販売店(工事店・サービス店)にご連絡ください。

- 保証期間中は保証書の規定にしたがって、販売店(工事店・サービス店)が修理させていただきます。修理に際しましては、保証書をご提示ください。なお、離島および離島に準じる遠隔地へのお出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。

- 保証期間が過ぎているときは修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。料金などについては販売店にご相談ください。点検・診断のみでも有料になることがあります。ただし、補修用性能部品の保有期間が過ぎている場合は、修理できないことがあります。

● 修理料金は

- 技術料+部品代+出張料などで構成されています。機器の接続・機器の調整・取り扱い方法の説明なども修理料金に含まれます。
- 技術料…製品の点検や故障した製品を正常に修復するための料金です。
 - 部品代…修理に使用した部品代金です。
 - 出張料…製品のある場所へ技術員を派遣する費用(出張料)や有料駐車場の費用(駐車料)を別途いただく場合があります。

● ご連絡いただきたい内容

1. 品名 パッケージエアコン
2. 形名・製品番号 室内ユニットは、保証書に記入してあります。室外ユニットは、室外製品銘板に記入してあります。
3. お買い上げ日 年 月 日
4. 故障の状況 (できるだけ具体的に、リモコンのエラー表示番号なども)
5. ご住所 (付近の目印なども)
6. お名前・電話番号・訪問希望日

- この製品は、日本国内用に設計されていますので、国外では使用できません。また、アフターサービスもできません。

This appliance is designed for use in Japan only and the contents in this document cannot be applied in any other country. No servicing is available outside of Japan.

●お問合わせ窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

三菱電機株式会社は、お客様からご提供いただきました個人情報は、下記のとおり、お取り扱いします。

1. お問い合わせ（ご依頼）いただいた修理・保守・工事および製品のお取り扱いに関連してお客様よりご提供いただいた個人情報は、本目的ならびに製品品質・サービス品質の改善、製品情報のお知らせに利用します。
2. 上記利用目的のために、お問い合わせ（ご依頼）内容に記録を残すことがあります。
3. あらかじめお客様からご了承をいただいている場合および下記の場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を提供・開示することはありません。
 - ① 上記利用目的のために、弊社グループ会社・協力会社などに業務委託する場合。
 - ② 法令などの定める規定に基づく場合。
4. 個人情報に関するご相談は、お問い合わせをいただきました窓口にご連絡ください。

13. 環境関連の表示

[1] 再資源化について

このユニットは、ご使用終了時に再資源化の一助として主なプラスチック部品に材質名を表示しています。このユニットは、ご使用終了時に再資源化の一助として製品本体を材質別に容易に分解できる構造になっています。

[2] フロン排出抑制法

ユニットを廃棄される時は、フロン排出抑制法で冷媒の回収が定められています。お買上げの販売店（工事店）、またはメーカー指定のサービス店、もしくはお客様相談窓口にご相談してください。

この製品はフロン排出抑制法・第一種特定製品です。



室内ユニットおよび室外ユニットに表示されている左記のシンボルマークは、パッケージエアコンに温暖化ガス（フロン類）が封入されていることを確認していただくための表示です。

この製品はフロン排出抑制法の第一種特定製品です。廃棄・整備するときは、都道府県に登録された第一種フロン類回収業者にフロン類の回収を依頼してください。

室内ユニットにはフロン類の種類・GWP（地球温暖化係数）が表示されています。システム全体のフロン類の数量は室外ユニットに表示されています。

- ・ フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
- ・ この製品を廃棄・整備する場合には、フロン類の回収が必要です。
- ・ 冷媒の種類および数量並びにGWP（地球温暖化係数）は、室外ユニットに記載されています。
- ・ 冷媒を追加充てんした場合やサービスで冷媒を入れ換えた場合には室外ユニットの＜冷媒量記入のお願い＞の記入欄に必要事項を記入してください。

[3] 「フロン排出抑制法」に基づく冷凍空調機器の点検について

冷媒フロン類を適切に管理して頂くために、本製品を所有されているお客様ご自身による簡易点検が義務づけられています。

目視による外観点検を3か月に1回以上実施し、記録することが定められています。お客様ご自身での点検が難しい場合や、点検で漏えいや異常があった場合は、専門業者による点検をお願いします。

詳細は下記のサイトを参照してください。

JARAC 一般社団法人 日本空調設備工業連合会 <http://www.jarac.or.jp/>

点検頻度	点検方法	点検項目
3か月に1回以上	お客様(=所有者様)による目視での外観点検	ユニットからの異常音、ユニットの外観損傷・摩耗・腐食・さび・油漏れ、熱交換器への霜の付着

MEMO

愛情点検

●長年ご使用のパッケージエアコンの点検を！



こんな症状は
ありませんか

- 運転音が異常に大きくなる。
- 室内ユニットから水がもれる。
- 電源が頻繁に落ちる。
- その他の異常・故障がある。

ご使用
中止

事故防止のため、配線用遮断器(ブレーカー)を切(OFF)にし、販売店に点検・修理をご相談ください。

便利メモ

お買上げ販売店名

電話番号

ご不明な点がございましたらお客様相談窓口（別紙）にお問い合わせください。

三菱電機冷熱相談センター

0037-80-2224(フリーボイス)/073-427-2224(携帯電話対応)

FAX(365日・24時間受付)

0037(80)2229(フリーボイス)・073(428)-2229(通常FAX)

三菱電機株式会社

本社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3 (東京ビル)
冷熱システム製作所 〒640-8686 和歌山市手平6-5-66

2020年1月作成

WT09483X01